

研修報告書

平成 29年 6月16日

学 校 名： しらゆり幼稚園

学 科 名：

役職・氏名： 満三歳教諭 芦川 智美

稟議起案番号			研修計画書番号		
実 施 日	平成29年 5月 10日(水) ～ 平成29年 5月 22日(月)				
研修名称	<u>平成29年度フィンランド研修</u> (主催： ハナコセミナー)				
研修目的	☐ 専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上 ☐ 授業及び学生に対する指導力等の修得・向上 ☐ 学校運営・教育マネジメント等に関する専門的能力の修得・向上 ☒ その他の研修 <u>海外研修</u>				
場 所	フィンランド(オウル、ヘルシンキ他)				
予 算 枠	円	稟議承認予算枠	枠内 ・ 超過		
交 通 費	円	宿 泊 費	円		
参 加 費	円	その他経費	円		
費用合計	円				
報告内容					
ハナコセミナーのフィンランド研修に参加させていただきました。... <u>Oulu</u> では <u>OSAO Catering School</u>、<u>OSAO English Speaking Playschool</u> の視察、ハナコセミナーに参加しました。... また、5日間 <u>Veikkola</u> にある幼稚園で研修をさせていただきました。... 報告書遅くなり申し訳ありません。...					

※開催案内・日程表・研修案内を添付のこと

※研修目的は項目のいずれかに○印を付けること

※稟議承認予算枠は承認された稟議の予算内か超過かを○で囲むこと

確認欄

副理事長	校長・園長	部長・室長	学科長・副園長	主任

5月10日

成田空港発40分程の遅延でヴァンター空港に着き、乗り継いでオウル空港へ。
空港まで現地コーディネーターの Mika さんが迎えに来てくれた。
雪が降っていた。5月に雪が降るのは100年に2回あるかないか。



5月11日

午前中にオウルの歴史博物館とマーケットホールへ
近くの小学校低学年の子どもたちが授業で来ていたがとても静かに見学していた。
オウルは昔タールと木材で栄えた港町である。



オウルで有名な太っちょおまわりさん。
昔この港で本物の警察が見張っていた為この銅像ができた。



OSAO ケータリングスクール

オウルの調理専門学校で中心的存在だが施設の老朽化等により他学校に吸収される。
調理、製菓、製パン、サービスツーリズムの学科がある。
設備が充実しており、レストランの運営で実習を行っていた。
レストランには近くの幼稚園の子どもたちなども来ていた。
16歳～24が中心となった学校であり、移民のクラスや社会人経験者のクラスなど様々なクラスがあった。

OSAO English Speaking Playschool

旧陸軍の施設内にある。



3歳から6歳の子どもが通っており同年齢のクラスで1クラス10名程度。
朝7時から受け入れており、朝ご飯を園で食べることも可能。(シリアル等)
9時までは自由遊び
9時から11時30分までがサークルタイム
見学したときに雪がぱらついていましたが戸外で遊ぶ姿がみられた。
どんなに寒くても戸外遊びは欠かさない。
フィンランド語を話せない親もいる。
子どもたちは先生から英語の問いかけに応じていた。
又、座って話をしている先生の話をしっかりと聞いている姿が印象に残った。
製作等の掲示物も英語で書かれている。

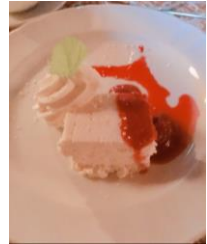




時計が1. 2. 3だけではなく13. 14. 15も表示されていた。

HANAKO—Dinner at Restaurant SokeriJussi

隆生福祉会さん7名、光塩学園さんの
南部理事長先生と HANAKO の関係者
との食事会。



昔流れてきた船の木材を使用した建物。
店内にはフィンランドの伝統的な装飾品
ヒンメリが吊るされていた。
21時30分でも外は明るかった。



5月12日

HANAKO—seminar at 国家行政庁

5月12日はフィンランドデーで今年が独立100年
12%の学生が海外に出ている。

国際教育の需要が高い。

オウルは人口20万人 平均年齢37歳（学生が多い）

教育産業で注目されており教育関係の視察の現場になることが多くある。

9月9日は企業家の日

EDU パック（学校や保育園に訪問するプロジェクト）

EDUpacsJAPAN 日本向けの体験パッケージプログラム（フィンランドの学生と一緒に）

Valve Film School

7歳から自分のムービーを作れる。

Painting with arctic berries

赤ちゃんから本物のベリーの色で手や足を使って絵を描く。

Company visits

会社の訪問をしたりゲームを作ったりする。

ICU&5G

スマートヘルスケア



幼児期から企業家教育を取り入れており、オウル市、オウル大学、オウル大学病院、企業などが協力体制をとっている。

企業家プロジェクト

対象は17歳から24歳

このプロジェクトは誰でも参加することができる。面接で30名を選定。

業務内容は低い敷居を原則としており壁を塗るやアイスクリームを売るなど何でも良い。

自分から行動しないと何も始まらないということを経験することに重点を置いている。

メンターという企業家を協力的にサポー

トするスポンサーみたいなものがある。

この日の昼食は Restaurant Pokkinen



セミナーが終ってからオウル空港からヴァンター空港に向かった。

5月13日

エストニア観光

ホテルの目の前のトラム乗り場から港へ

VIKING LINE（船）でエストニア（タリン）へ

タリンはエストニアの首都でバルト海東部のフィンランド湾に面している。

ヘルシンキから85Km程度

旧市街は世界遺産に指定されている。

旧市街は下町のローワータウンと山の手のトームペアから成っており、ローワータウンは城壁など欧州で最も保存状態の良い旧市街地の1つである。



←城壁

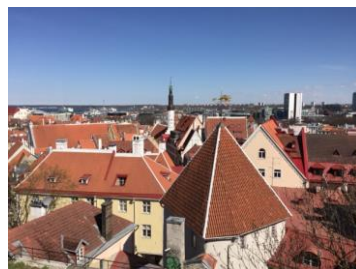
旧市庁舎広場→



←北門

スール・ランナ門

タリンの街並み→

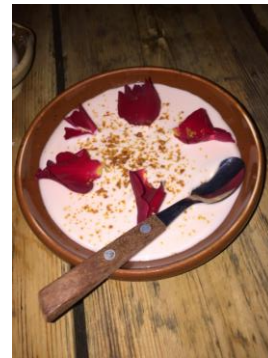


←国会議事堂

アレクサンダー・ネフスキー大聖堂→



昼食は Olde Hansa



帰りの船内は酔っ払っている人が多く、カラオケをしたりダンスをしたりそれぞれ楽しく過ごしていた。

5月14日

ヌークシオ国立公園（ハイキング）

ホテルの目の前のヘルシンキ中央駅から電車で ESPOO 駅へ。



ESPOO 駅からはバス（245）で終点まで。

バス停にインフォメーションボードがあった。



←かもめ食堂ポスターの撮影地

ハイキングやキャンプ、ランニングしている客が多かった。

もう少し暖かくなるとベリーを摘んだり、サウナに入ってそのまま湖に飛び込んだりする客が多いらしい。

5月15日～19日

初日ホテルのロビーで8時 Yuki Vitala さんと待ち合わせ

ホテルから徒歩10分程度のバス停へ（kamppi 駅）

ヘルシンキ中央駅の西の方へ進むと木の礼拝所が見える。

木の礼拝所→



そのまま進むと Kamppi と書いてあるショッピングセンターがみえる。

ショッピングセンター内のキオスクで5日間使える切符を購入してもらった。

キオスクを出て進むと右手にバスの時刻表とゲート番号が書いてある。
280番のバスに乗れば必ず目的の幼稚園に着く。



そのまま進むと左右にエスカレーターがみえる。

右側の地下がバスターミナルになっていて左側のエスカレーターに乗ると地下鉄の駅になっている。



エスカレーターで降りてゲート番号が表示されており↓のマークがあったら乗車出来る。



Kamppi 駅から40分ほどでバス停に着く。
ESPOO IKEA のバス停の次のバス停。

バス停を降りると幼稚園があるがその幼稚園ではなくスーパーのある方に横断歩道で渡り、スーパーを過ぎ桜の木を目指す。



桜の木を過ぎるとすぐに幼稚園と小学校がみえる。



先進的なことを取り入れておりこの地域でとても人気がある公立の幼稚園。小学校の校舎が繋がっている。
入園希望者が多いのでほぼ毎年抽選で決まる。(在園児に兄弟がいる場合は優先される)

1歳～2歳クラス、3歳～5歳クラス(ナーバタス)、6歳クラス(プリスクール)のフィンランド語のクラスとスウェーデン語のクラスがある。

各クラス教員2名、ナース1名(看護師ではなく教員の下)、必要に応じてアシスタント(無資格)がおり、障害児に支援員がつく時もある。子どもは1クラス21名まで。

9:00～13:00がプリスクールの活動時間

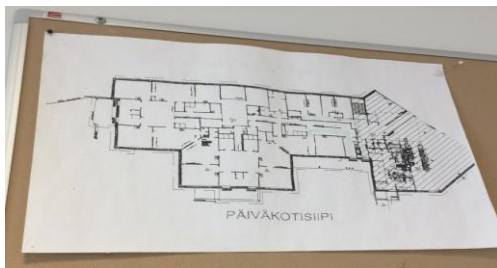
在宅で仕事をしている人は週に20時間しか預けられない。

毎日4時間預ける家庭もあれば週に3日間預ける家庭もいる。

基本的に登降園の時間は決まっていなくて自由であり、各クラス専用の玄関がある。

欠席の連絡は電話ではなくクラスの携帯電話にメールで送る。

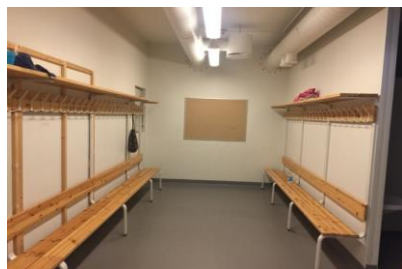
日本とは違い1月1日～12月31日が同じ学年で8月1日～新年度になる。



園舎内図



フィンランドの幼稚園でよく履かれている上履き。



半地下が体育館になっている。
シェルターもある。



舞台の高さは時と場合によって変えられる。

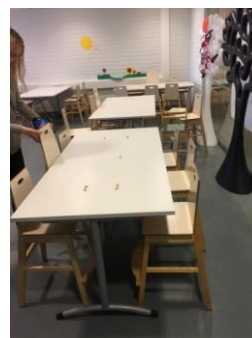
(舞台がない時もある)



←プリスクールと小学生の食堂
椅子は机にかけてある。

ナーバタスの食堂→

日本とは違い子どもの椅子が高い。



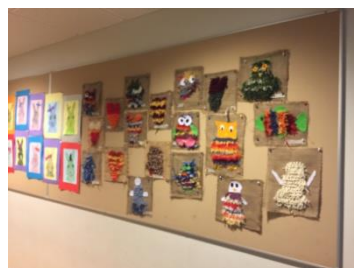
小学校



壁でロッククライミングができるようになっていたり、座れるクッションが壁に収納できるようになっている。
休み時間このクッションに座って話をしたりする。



廊下に子どもたちの作品が掲示されていた。
 広告を使ったものや毛糸で編んで作ったものなど。
 右半分の写真に左半分は自分で描いた作品もあった。



小学校で支援が必要な子の為に放課後 D クラスが
 2 年生までである。

倍数が一目で分かる表→

又、学童の対象も 2 年生まで。

3 年生までは半日で授業が終わる。3 年生から英語の
 授業も始まる。英語はスペルが間違っているけど読みが合っていれば○を貰える。
 次は気をつけようと思い、子どもたちの学習意欲が高まる。



幼稚園の 1 日の流れ

6 : 3 0 ~

登園開始

自転車で登園する子もいる為自転車置き場がある

8 : 0 0 ~

朝食 (シリアル、おかゆ、ミルク、フルーツ等)

担任が子どもを迎えに行く

8 : 3 0 ~

朝礼 (手話で挨拶、今日何をしたいのか子どもに聞く)

朝礼はお昼寝をする部屋で行われる。



ナーバタス (縦割りクラス) は年齢ごと違う色のクッションに座る。

朝礼後小さなグループで活動
戸外遊びや算数、製作絵画など。

11:00～

Lunch

その日のメニューによってプリスクールの子どもは自分で配膳する。
バランスの目安が貼ってあるが、嫌いなものは取らなくても良い。
片付けも自分で行う。フィンランド語、スウェーデン語で書いてある。



ナーバタスの子どもは先生がよそってくれる。
名前を呼ばれたら並ぶ。自分の席まで自分で運び座った子から
どんどん食べる。



フォークとナイフを器用に使いこなして食べていた。
食事のマナーなどは基本家庭で教えることだから幼稚園では教えない。
小学校入学前にはフォークとナイフを使い自分でジャガイモの皮が剥けるように
家庭で練習する。

Lunch 後に歯磨きはせずキシリトールのタブレットを
なめる。
フィンランドの冬は極夜で日照時間が短い為ビタミン D も
含まれている物が多い。
大人はフッ素のタブレットをなめる。



お昼寝 30分～1時間30分くらい
ベッドは壁に収納されている。
寝る場所は決まっている。
音楽を流して先生が本を音読する。
寝られなくても1日の中にベッドでリラックスが
できる時間を設けることが大事。
パンツ一枚で寝ている子どもも多くいた。



起きた子から活動する部屋に移動する。
プリスクールの起きた子は本を読んだり
絵を描いて静かに出来ることをしていた。
基本的には室内で自由遊びだが落ち着きがないと
感じたら少人数で戸外に出る。



14:00～

おやつ
フルーツやおかゆ、パンなど
プリスクールの子が下のクラスの子のおやつワゴンを
運ぶ
ナーバタスはランチと同じく先生が配膳し
名前を呼ばれるまで待っている。準備ができた子から
どんどん食べる。



お天気が良くて外で食べられそうな時はメニューによっては外で食べる。
この日のおやつのメニューはパンだった。
外で食べた時は食べ終えた子からそのまま戸外遊びをしていた。

14:45～

戸外遊び
フィンランドの冬は極夜で日照時間が短く太陽の光を欲している。
雨でも明るければ戸外で遊ぶ。
週の初めは雪遊びウェアを着てニット帽と手袋で遊んでいたが
週の終わり頃は半袖にキャップで遊んでいる姿が多く見られた。
フィンランド人は色素が薄く太陽の光が眩しく感じる為サングラスをして遊ぶ子ども
も多くいた。
基本的に教師は見守っていて危ない遊びをしている子がいたら注意をする。



砂場で友達と遊んだり、タイヤを転がしたりして楽しんでいる。



シーソーに1人で乗っている子や、友だちと一緒にブランコ（座るところがタイヤ）に乗って遊んだりする女の子が多い。



戸外の倉庫に戸外遊びで使える物が入っている。
（鍵がかけてあり子どもだけでは入れないようになっている。）
戸外にもごみ箱が設けてあり園に迎えに来る保護者も使っている。



戸外遊びで着る服

濡れた服を乾かす乾燥機→



15:30頃

ほとんどの子どもが降園

17:00

閉園

誰でも使えるように園庭を開放する。

室内遊び

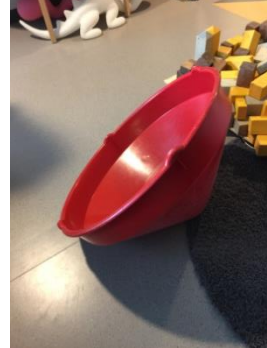
毎週金曜日は自分の家の玩具を持ってきて皆に紹介しよう！という日。

塗り絵、絵本、ラジコン、ぬいぐるみ、カラオケができるもの、お化粧セットなど何でもよい。

友達と玩具を交換して遊ぶ姿がみられた。



粘土やLEGO、積み木、座って転がる物、鏡の中に自分がたくさん映るものなど様々な玩具があった。



Spring far

水曜日の18:00から Spring far（フィンランド語クラス）があった。

スウェーデン語クラスは前日行われていた。

基本的に土日は家族で趣味の時間（好きなことをする）の為平日に行事がある。

発表会の後に卒園式が行われた。

今年のテーマは世界を旅してみよう！

月曜日の打ち合わせに参加したが細かいことは何も決まっていなかった。

火曜、水曜の子どもたちのリハーサルで順番や演出が変わっていたが子どもたちも対応することができていた。又、立ち位置などもない。子どもたちに自分はどこの場所が良いのかを考えさせ、子ども同士で意見を出し合って決める。

先生たちのショーではないので子どもをコントロールしすぎない。

先生はあくまでも導き役なので子どもと一緒に作り上げることが大切である。

司会も立候補した子どもたちで行っていた（2人）

人数が多かったら子どもたちで話し合い何故司会は多いとだめなのかを考えさせてどうすればいいのかを導く。

又、過去にピアノやギターを使ったが子どもの声が聞こえなくなり、子どもだけの方が良いと感じた為 BGM は使わずにうたっていた。

当日園長先生が何カ国出てきたか最後に聞くから数えていてね。と言い終わってから10カ国、15カ国と色々な答えが出た。園長先生は正確な数は言わずに式を閉めた。

一人一人それぞれ思ったり受け止めたりすることが違うのだからどの答えも子どもが思ったことは正解であるとの考え方だった。

アメリカ、ドイツ、日本のハーフの子どもが在籍していた為

アメリカのキラキラ星（英語で歌う）ドイツのグミベア（踊る）日本の芸者、空手（影絵）

がプログラムの中に取り入れられていた。

式の前日に影絵で使える日本っぽい小物が欲しいと言われたのでプリスクールの子どもと Yuki さんと桜の切り絵を作った。

ナーバタスの子は自分たちで廃材を使用し作った楽器を鳴らした。



世界を旅しよう！のうたに合わせて各国の写真と子どもたちが合成された映像が流れていた。



卒園セレモニーに変わる時に今までのスライドショーやダンスコンテストの動画、フィンランド独立100周年にちなんで100歳の私たち（子どもの写真を老人になるように加工されている）の絵が流れた。

卒園セレモニーはABC順で1人ずつ担任に名前を呼ばれ薔薇の花を貰いハグをしていた。

最後に卒園のうたをみんなで歌った。

帰る時にアイスを貰い解散。



ストーリー遊び

今から絵本を作りましょうではなく日々の遊びの中で子どもが発している物語から作り上げたりもする。

絵画もその子の物語を先生が聞きメモをして絵画の近くに貼る。

その物語をクラスの皆に発表する。発表するのは子どもでも先生でも良い。

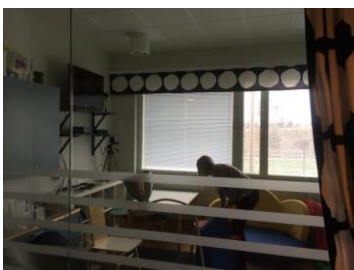
その子の物語をみんなの前で発表し友だちに認められることにより子どもの自信に繋がる。

一言でも良いし長い物語でも良い。



メディア遊び

メディアの部屋がある。



メディアで使われている壁と布。

みんなで最初から最後まで全部一緒にやるのではなく写真を撮る人、ストーリーを考える人、作品を作る人（粘土やぬいぐるみなど）どれか一つでも関わってやれば良い。

エンドロールで名前を入れてあげることにより作品に関わったことを実感し満足する。

2歳児からメディア遊びを始めている。

子どもは興味のあるものを写真に撮るので作品を通してその子のことが分かることが多い。

又、視線が違うから子どもが撮る写真は楽しくて面白い。

メディア遊びの中で布にくるまれて写真を撮ると自分が消える。

この経験をすることによってテレビなどで流れていることが本当のことなのか作り上げたものなのか見極めることができるようになる。

カメラを落としたらどうなるのか子どもたちが考えることにより危機管理にも繋がる。

この園では機材は高いが子どもたちの個性を伸ばすためにはどうすれば良いのか考えて取り入れている。

各クラスに Ipad、カメラ、パソコンがある。

普段の保育風景を撮影し見返すと、今まで見えていなかった子どもの姿が見え、反省にも繋がる。

クラスの誕生日表も子どもたちが描いた絵と合成されているクラスもあった。



製作・絵画

工作室があり曜日と時間で使えるクラスが決まっている。



床がタイルになっており、夏は工作室でプールも行う。

2歳児からハサミの練習を始めている。

プリスクールになると細かい所まで器用に使いこなせていた。



各クラスにハサミ、鉛筆、クレヨンなどまとめて園の物が置かれている。（個人で用意するものはない）

たくさんある中で自分がどれを使いたいのか考えて選ぶことが大切である。

又音楽を聴きながらイメージをして絵画を描いていた。
 この日は春の音楽を聴いていた。
 同じ机で描いていたがみんな自分の思ったことを表現できていて
 同じような絵は無かった。



保育室の入り口や窓も子どもたちとの作品になっていた。



フィンランド独立100年と
 国旗が飾られていた。
 自分のロッカーには写真を切り
 取って作った自分の顔があった。



カーネーションを使用し、色を組み合わせると何色になるのかを勉強をしていた。

鏡に自分の姿が描いてある。



描写をした絵画も廊下に飾られていた。





入園してからの絵画やプリントがファイリングされている。
来年度からは個人のページを作りそのページに作品の写真を撮って保護者がパスワードを入力すると回覧できるようにする予定。

特別支援

障害は個性であり、幼稚園に通うことが子どもたちの日常であるので受け入れを断ることは無い。
受け入れる場合は専門の先生と入園前に対策を考え準備をしてから迎える。



支援が必要な子どもにはその子が確実にやり遂げられる目標を考え表にして出来たらスタンプやシールを貼る。
出来なくてもやろうとする姿勢がみられたらスタンプやシールを貼る。

落ち着きがない子には椅子の上にこのクッションを置くと座っていただけるようになる。

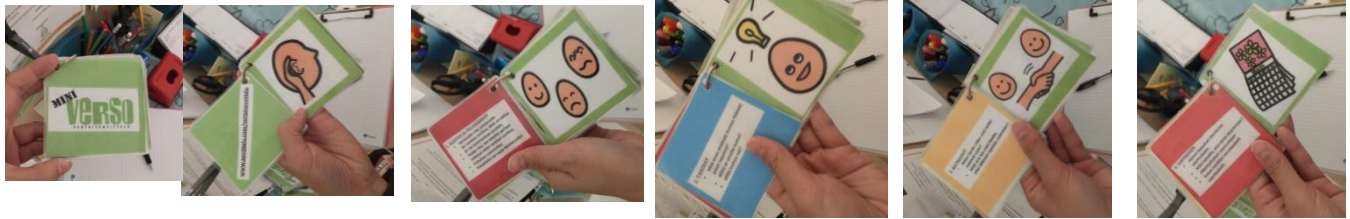
みて考える

信号機が園舎内にある。色で自分たちの声の大きさがどのくらいなのか判断できる。
赤信号は声大きい時。
黄色信号はざわついていてもうすぐで赤になる時。
青信号は良い声の大きさの時。

ケンカが起きたらそのシチュエーションと同じカードを見せる。
何をしているのか、カードに写っている子どもはどんな気持ちなのかを考えさせ皆で話し合う。
皆で話し合った後に同じシチュエーションにして遊ばせる。



子犬とカタツムリのぬいぐるみを子どもたちにみせる。
子犬のイメージ（動き回る）カタツムリのイメージ（ゆっくりしている）
どうすれば一緒に生活できるのかを考え話し合う。



3歳以上から使用するカード。ケンカの仲裁に使う。研修会があり教師は皆このカードを持っている。

裏に教師が話すことが書いてある。

まずはどちらの見方をしないことを伝えて話を聞く。

どうすればよいのかを考えさせ話し合う。

仲直りができたらサインをする。

1週間後仲良く遊べているか聞く。

このカードを使用してケンカの仲裁をすることにより子どもたちはカードがなくても自発的にやるようになり、大人の介入がいらなくなる。



ハートのカードをみせられた時は自分の感情を表に出して良い時。

例えば

泣くのを我慢している子がいたら我慢しないで泣いてもいいよという合図。

又、人形を持っている人は話を出来、持っていない人は話をずっと聞いていなくてはならない時間もある。

手話とフィンランド語とイラストが描いてある物が多く貼られていた。



保育室での約束事(新年度の始めに必ず守れることを皆で考える)や園舎内での約束事も写真で撮って子どもたちで作ったものが貼ってある。

算数の時間



プリスクールの子は色々な種類の数を取り入れた遊びを行っていた。

例えばおはじきを10個入れると2つに分かれるから

1と9、2と8、3と7な分かれ方が違うから足し算の勉強になる。

見本のカードをみながら立体の模様が描いてある四角と鏡を使って
同じ形を作る。



2人1組で10個の指人形を使う。
1人の子が好きなように並べてもう1人の子が同じように作る。



色々な長さの棒を同じ長さに合わせる。

様々な形を組み合わせてプリントの図形を作る。



1から10の数字が書いてある瓶の中に
ドングリやビーズなど好きな物を選び
数えて入れる。



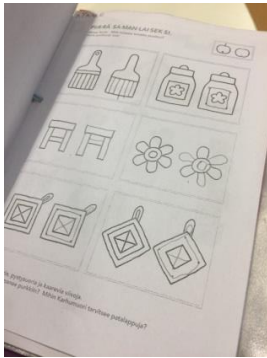
間違い探しを通して数の勉強を行っていた。

代表が1人クラスの皆の前で全身を見せ、廊下で5つ変身する。

例 上履きが左右逆、袖があがっている、髪型が変わっているなど
変身している間にクラスの子は伝言ゲームをして静かに待っていた。

どのクラスにも1から10まで数字と時計と
サイコロが書かれている物が貼られている。





ナーバタスの子は線の練習したり、色を使ったカードを行っていた。

カードは種類がたくさんある。



フィンランド研修の感想

水曜日がスプリングフェアだった為、月曜日、火曜日、水曜日は普段の保育を見ることができなかったが、行事の会議やリハーサル、準備など貴重な経験をする事ができた。

月曜日の会議ではアシスタントを誰に頼むか、ペンギンの鳴き声は何なのか、演出の順番、プログラムはどこに掲示をするかなどを話していた。結局プログラムは誰が見るの？ということで無駄なことは省く為プログラムはなかった。

リハーサルでもどのように行うかを話し合いながら進めていた。リハーサルの度に違う演出になっていたが子どもたちはそれに対応出来ていて驚いた。長い時間リハーサルを行って注意を受けている子どももいたが、静かに座って待つことができていた。なぜ子どもたちがこんなに静かに待てるのか疑問に思い質問したところ子どもが静かな方が保育しやすいから大きい声を出さないように注意をするとの答えが返ってきた。又、少人数保育の為自分の思いを保育者が受け止めてくれて、話も思う存分聞いてもらい満足感を味わえた経験が多くあることも大きい声を出さなくなる理由の一つではないか。とのことだった。

立ち位置決めていないため見えない子どもがいることにも驚いた。日本とは根本的な考え方が違う為、全てのことが新鮮であった。

子どもたちの危機管理も高く、保育室の机の上に大人用のハサミも子ども用のハサミも置いたままになっていたが、触る子どもは一人もいなかった。2歳からハサミの練習をしているからかハサミの使い方がとても上手かった。

トイレトレーニングも1歳半からオムツをしないで規則的に行う。ナーバタスのクラスでトイレの失敗やお昼寝の際のお漏らしをしている子どもは実習中1度もなかった。

子どもの気持ちを最優先しており、製作をする時間でも製作をしたくないという子どもがいれば製作をしたい子だけで進めていた。他人と比べられることがなく、自分は自分、他人は他人の考え方が強かった。絵画なども友達のことを気にせず自分の思うことを伸び伸びと表現していた。競うこともないので1番争いがなく、順番をきちんと守ることができている。背の順に並んで移動することはなく基本準備ができた子から男女混合1列で並んでいた。

小さいころから自分で見て考え判断して行動しているからか、考える力がすごくあると感じた。

食事でも自分で食べられる量を考えプリスクールの子は自分で食べられる量だけ配膳し、ナーバタスの子は教師に食べられる量を伝え食事を残している子どもはほとんどいなかった。

又、視覚で訴えることが多いと感じた。言葉で説明をしても伝わらないが、廊下を走らないことや広がって歩かない写真が貼ってあり子どもたちの視覚に入ることによって廊下を走る子どもはいなかった。

フィンランドでは基本的に学習塾の習い事はなくピアノやサッカーなど芸術やスポーツの習い事が一般的である。

子どもたちに完璧なことを求めるのではなくその子に合ったレベルで保育をしていた。高すぎる目標は設定せずに必ず子どもが達成できることにし、出来たことで褒められ認められたと感じることが大切だと改めて感じた。日本とフィンランドは国民性なども異なるのでそのまま取り入れることは難しいが特に視覚で訴える保育などは日本でも使えると思った。

今後、小さなことでも認めて子どもが出来なくても自ら苦手なことをやろうとする気持ちを大切にして自分自身も気持ちに余裕を持った保育をしていきたいと思う。

月曜日から水曜日は1日、木曜日と金曜日は隆生福祉会さんの介護実習もある為半日ずつ通訳をして頂いた。

幼稚園の先生たちも英語が話せない方もいて保育はフィンランド語で行われる為、通訳さんがいないと先生が何を言っているのか今から何が行われるかなど分からなかったのが通訳さんがいてくれて助かった。